（概要版）

通常学級に在籍する特別な支援が必要な児童の授業における支援
－認知や行動の特性を生かした教材・教具の用い方に視点をあてて－

長期研修員　　水戸　厚

全面実施から3年目を迎えた特別支援教育　現状と課題は・・・・

現　状

○　学校全体での支援体制の推進
- 特別支援コーディネーターの指名
- 校内委員会の設置
- 研修会の開催　　など

○　個に応じた指導、支援の展開
- 「個別の指導計画」の作成
- 群馬県特別支援教育総合サポート事業の活用　　など

しかし

課　題

- 児童生徒は、どんなことに困っている？また、教師はどう対応すればいい？
- どうしたら授業に集中できるのだろう？その手立てやかかわり方を知りたい
- 支援のためには、どんな教材・教具を作り、どう使えばいい？　　など

児童生徒

「わかりづらさ」や「困り感」

教師

実態のとらえや、支援の方法に対する戸惑いや悩み

これらの課題解決のためには、特別な支援が必要な児童生徒の認知や行動の特性をとらえ、「わかった」「できた」という「達成感」や「自己肯定感」をもてるような支援をすることが必要

例えば・・・・

【情　報】
授業中に先生が話をする時に・・・

『子どもの思い』

【絵を使っているからわかりやすいなあ】

【できるぞ！授業が楽しいなあ】

【先生の話だけの説明では、わからないよ】（音声言語）

【何をすればいいんだろう？全然わからない！】

認知とは・・・
入ってきた情報を処理する過程のこと。
考える、判断する、理解するなど

子どもの中には、聞くことだけでは内容を理解することが苦手な子がいます。

特別な支援が必要な児童生徒は、認知に偏りがあったり特徴的な行動が見られたりすることが多くあります。

本研究では、子どもの認知や行動の特性を生かして「教材・教具の開発」を行い、一斉授業において「活用」します。

このことを通して指示や説明、内容の理解を支援し、「達成感」や「自己肯定感」をもてるようにします。

本研究の内容

① 児童の認知や行動の特性をとらえます。

② 認知や行動の特性を生かした支援（教材・教具の開発と活用）を一斉授業で行います。

③ 認知や行動の特性を生かした教材・教具を用いた支援のあり方（観点）を提言します。

特別な支援が必要な児童の認知や行動の特性をとらえ、それを生かした教材・教具を開発するまでの過程　（算数科「分数のかけ算・わり算」単元）

本研究の実践

①特別な支援が必要な児童のとらえ（困っている背景を探る）

特別支援学校のセンター的機能の活用（観察・知能検査・助言など）

群馬県特別支援教育総合サポート事業の活用（助言・観察など）

WISC-Ⅲの結果から、数字や数式を操作することが得意なようだ。

何かをいじっているとき気持ちが落ち着いているようだ。

授業に、手先や体の動きを取り入れると有効そうだ。でも・・・・・

・・・・「マス目を塗る」というような丁寧さや、ち密さが必要な作業な苦手そう

群馬県教育委員会特別支援教育室作成チェックリストの活用（観察）

個別の指導計画作成

丁寧さやち密さを必要としないことに留意しながら、授業の中で体や手先を動かす活動を設定する。

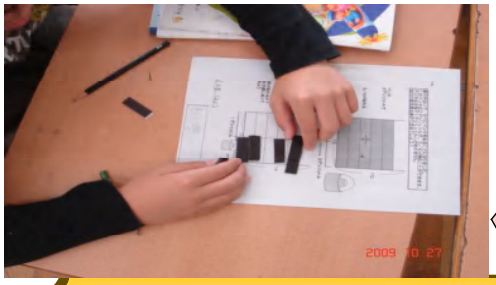
② 学級全体に対する一斉指導の計画作成

○ 教科のねらい
4観点の評価規準
↓
↓
○ 単元のねらい
図や数直線を使って理解を支援する
↓
↓
○ 本時のねらい
分数のかけ算・わり算の理解のためにマス目を塗る面積図を使おう。
↓
○ 本時の学習活動
問題の理解をマス目を塗る面積図を使って支援しよう。

認知や行動の特性を生かした教材・教具の開発

分数のかけ算を使う具体的な場面をイメージするため面積図のマス目を塗る活動を行おう。この時に、マス目を「塗る」活動は苦手そうだ。「塗る」以外の方法で、面積図を使う活動を取り入れるとしたら、どんな教材・教具が必要だろう・・？

そ こ で ・ ・

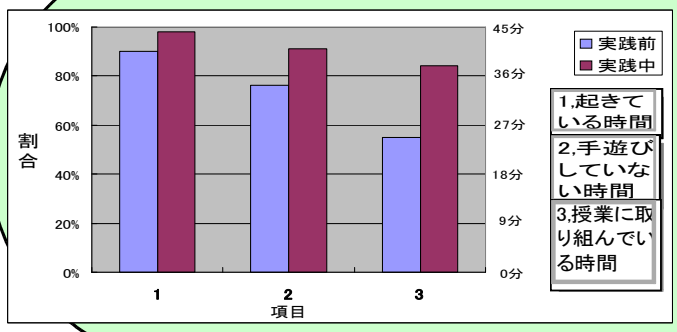


マス目の大きさに切った磁石を「貼る」ようにした面積図

○　児童の様子
教材を渡されてから１分以上集中して問題に取り組み、他の児童より早く問題を解いた。その後待っている間、磁石を使っていろいろな面積図の考え方を試していた。

このほか、「数字や数式での説明を加えたヒントカード」や「授業の流れを書いたホワイトボードと赤矢印」「板書をノートに写すための視写枠」など26種類の教材・教具を用いた結果…

１　特別な支援が必要な児童の、授業に対する取組の違い



授業に集中して取り組む時間が、一単位時間（45分）あたり、約１３分増加した。

授業に集中して取り組めるようになった。

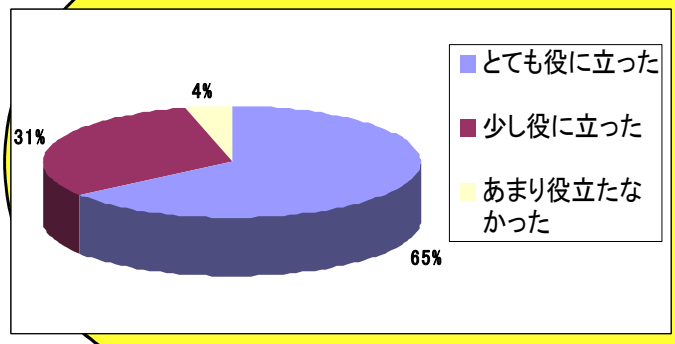
２　特別な支援が必要な児童の、授業後の自己評価の違い
（授業中以下の項目について「できた・よくできた」と感じた割合の違い）

		実践前	実践中
1	話をよく聞いていた	0%	81%
2	すすんで発表した	8%	81%
3	課題にすぐ取りかかった	8%	81%
4	解決への見通しをもてた	0%	81%
5	自力で答えた	0%	81%

授業に対する「やる気」や「理解度」が、大きく増加した。

「困り感」や「わかりづらさ」が軽減し「達成感」や「自己肯定感」が高まった。

３　学級の児童全員に対する教材・教具の有効性



学級の児童の９６％にとって、授業理解や意欲向上のために役だった。

ほぼ全員の児童の、授業に対する意欲や理解を高めることに役だった。

※　実践前の授業（単元）と実践中の授業（単元）の比較（観察法やアンケート調査より）

提　言

③　認知や行動の特性を生かした教材･教具を用いる（＝開発、活用する）観点は･･･

既存の教材・教具

ポイント2
既存の教材・教具にひと手間かけるだけでいい。

ポイント1
不得意な認知や行動の特性を生かした教材･教具が開発できないか考えよう。

開発

ポイント3
形や大きさ、色や質感など、個に応じて細部こだわって作ろう。

個に応じた教材・教具

活用

ポイント4　「できないから」「ダメだから」支援するのではない。「いまより上手に行うため」に支援しよう。

ポイント5　教材･教具を使うための授業にならないように気をつけよう。（一般的には、一単位時間に使う教材は2、3個が限度）

ポイント6　児童生徒の主体的な取組を引き出そう。（教材は、児童生徒にとって難しすぎず、易しすぎず）

改良

評　価

ポイント7　評価規準を明確にしよう。（児童生徒のどんな様子を引き出したいのか、事前に明確にしておこう。）

研究のまとめ

- ○　児童生徒の認知や行動の特性をとらえるためには、外部機関の協力を得ることが有効である。
- ○　個別の指導計画と一斉授業の指導計画の両方を考慮して、支援の具体的方法を考える。
- ○　特別な支援が必要な児童生徒に対する支援は、学級全体にとってもわかり易い。

問い合わせ先　群馬県総合教育センター
担当係：特別支援研究係　０２７０－２６－９２１８（直通）